

令和6年度 厚生労働省委託事業
在宅医療関連調査・講師人材養成事業 事前学習プログラム

南空知バイタルリンクの実践

国民健康保険由仁町立診療所 医療福祉相談センター

保健師 濱道 智子

はじめに



▶由仁町

人口 4,554人

高齢化率 43.9% (R6.9月末)

農業が基幹産業



▶由仁町立診療所

有床診療所（一般19床）

在宅療養支援診療所

救急告示診療所

老健（29床）を併設

▷訪問診療 H30開始

由仁町、栗山町、長沼町全域

これまで524名が利用

現在 約120名が利用

ICTツール R3～利用開始

▶ 南空知バイタルリンク導入の背景

▶ ICT活用のメリットとポイント

▶ 南空知バイタルリンクの実践

▶南空知バイタルリンク導入の背景

▶ICT活用のメリットとポイント

▶南空知バイタルリンクの実践

▶ 南空知バイタルリンクとは

- 空知南部医師会が実施主体（S管理者）
- 帝人ファーマ株式会社の多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」を使用
- 南空知医療・介護多職種連携情報共有システム（通称：南空知バイタルリンク）
- 医師会から業務の委任を受けて、由仁町立診療所医療福祉相談センターがシステム管理事務局を担う

南空知バイタルリンク導入の背景

▶南空知バイタルリンクとは

利用事業所 **91か所**

医療機関・ケアマネ・訪問看護・ヘルパー
訪問リハビリ・通所系サービス・ショートステイ
薬局・歯科医院・地域包括・福祉用具
施設・障害福祉サービス事業所など

利用者数 **288人**

メッセージ数 **1,101件/月**

(R6.9月)

南空知医療・介護多職種連携情報共有システム 担当者登録フォーム

次の患者について、患者グループの作成、登録の変更を届け出ます。

届出者	氏名				
患者氏名		生年月日	T S H R	年	月 日

1 担当者変更 追加した担当者に○、削除する者に×印、変更しない者は無印

	由仁町	栗山町	長沼町	南幌町	岩見沢市ほか
医療機関	牧野内科医院 由仁町立診療所	つぎたてクリニック 栗山赤十字病院	町立長沼病院 くら内科内視鏡クリニック みどりクリニック長沼 長沼整形外科・リハビリテーション科	町立南幌病院	岩見沢市立総合病院 ささえるクリニック ささえるクリニック岩見沢 いぬみずき診療科・内科 CLINIC
ケアマネジャー	由仁町社協居宅	ケア・ランセンターりやま プロケアすばる くらし栗山 ほのか パートナー	迎光園居宅 長沼社協居宅 ケア・ランセッションマイ		あすも介護相談室
訪問看護 ステーション	由仁町立診療所	栗山赤十字訪問 看護ステーション	長沼地域訪問看護 ステーション	マーガレット	まちの看護師さん 心護 恵 SORA ボリス (江別) ばるもい s (札幌) いちい (恵庭) ささえる なごみ (北広島)
ヘルパー	由仁町社協サービス ステーション	プロケアすばる くらし栗山	長沼社協訪問介護		老蘇会 (札幌)
訪問リハビリ	由仁町立診療所			Re.ハッスル	
デイサービス	由仁町社協デイサ ービスセンター	プロケアすばる すまいる やまぼうし くりやま 一休さん			
デイケア			マオイの里	南幌ゆう	
ショートステイ	ひだまり ほほえみの家	くりのさと	迎光園		
薬局	ゆに・ハーブ薬局	なの花薬局栗山店 吉井龍雲堂 吉井調剤薬局 ナカジマ薬局日赤前 ココカラファイン栗山店	吉井調剤薬局長沼 クオール薬局長沼 長沼調剤薬局	南幌調剤薬局	リードしのめ薬局 (千歳)
歯科医院		永山歯科医院			ひさつね歯科
包括センター	由仁町包括	栗山町包括	長沼町包括	南幌町包括	
福祉用具・ 施設等	団炉裏 緑豊苑 KAKA'sFACTORY 消防由仁支署	ブライエボーリくりやま サンヴィレッジ栗山 廣樹庵 栗山町社協 つぎたて 5 拓心荘	山本福祉用具 かえでの杜		相談支援らしく 福祉用具まち福 サウレ福祉用具 タスワンヘルシント千歳 相談室あ〜ち 福祉村 ふくろうの杜

▶ 導入の背景（介護側）

H28～医療と介護の連携シート

- ・医療との連携が課題
 - 地域包括支援センターが作成
- ・医療機関に相談・照会したい情報をFAXで送信
- ・医療機関は返事を記載してFAXで送信

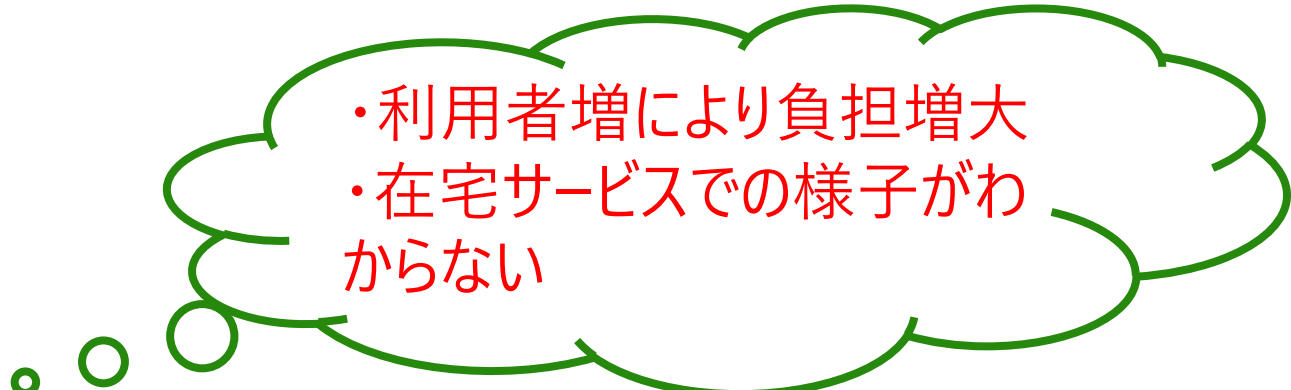


タイムラグの発生

▶ 導入の背景（医療側）

H30～訪問診療

- ・その日の診療内容をケアマネにFAXで送信
- ・訪問看護ステーションとは必要時電話等で共有



・利用者増により負担増大
・在宅サービスでの様子がわからない

介護側にも医療側にも情報共有のニーズがあった

▶ 導入の経過

- R2.10月 システム説明会の開催

（町内外のサービス事業所が集まる会議において、システムの説明と利用体験を行う）

- トライアルの実施に向けて準備を進める

（医師会への説明、マニュアルや運用フロー、様式作成、事業所訪問等）

- R3.1～2月末 トライアル（2か月間）の実施

- R3.3 本格運用を開始

（トライアル中から、患者登録を訪問診療利用者全体に拡大し、関係事業所に利用を働き掛けていった）

▶ 南空知バイタルリンク導入の背景

▶ ICT活用のメリットとポイント

▶ 南空知バイタルリンクの実践

▶ICT活用のメリット

- 情報共有の効率化

迅速性 ～ 一度の情報発信で、関係者全体に情報共有でき、スピード感が上がる

正確性 ～ 伝言ゲームにならない。漏れなく関係者全体に伝えられる

- 時間や相手の都合を気にせずに済む

自分のタイミングで情報を確認できる。情報発信も同様

- 医療と介護 双方向の連携が可能になる

介護側 ～ 利用者の医療情報がわかり、情報の精度があがった

医療側 ～ 利用者の生活背景がわかった

- ICT活用の可能性は在宅医療にとどまらない

▶ICT活用のポイント

- 情報共有の目的の明確化

情報共有のニーズがどこにあるのか

連携を必要としていなければ、連携はうまれない

- 運用のルールづくり

運用ルールやマニュアル、様式の整備

ハードの準備など費用面

- 利用事業所、利用者の拡大

利用事業者や利用者が多いほど、メッセージのやり取りが多いほど、利便性は向上する

利便性を感じられないと入力の手間と感じてしまう⇒使えないICTにならないように

▶ICT活用のポイント（南空知バイタルリンクの課題）

- ・在宅医療にとどまらない、地域全体で利用できるツールになるために
- ・利用事業所、利用者の拡大⇒管理者の業務負担
- ・南空知バイタルリンクの管理者は現在、当院を含めて2か所

インストールや説明、利用者・事業所の登録など
管理者は最寄りの地域にすることが望ましい

▶ 南空知バイタルリンク導入の背景

▶ ICT活用のメリットとポイント

▶ 南空知バイタルリンクの実践

▶事例 1

最期まで食べる楽しみを多職種で支援した事例

- ・訪問看護師、ヘルパー、歯科衛生士、言語聴覚士ほか
- ・最晩年期を在宅療養している中での脳卒中発症、経口摂取が難しくなる
- ・「食べるのは好きな人だった」「口から食べたいという希望を叶えたい」
- ・多職種での経口摂取評価、食支援

▶事例 2

- ・訪問看護師、ヘルパー、デイサービススタッフ、ショートステイスタッフほか
- ・認知症の進行により食事量が減少
- ・「施設に入所したら今以上に食べられなくなるのでは」「家で頑張れるだけ頑張りたい」
- ・多職種が状態や支援内容を細やかに共有しあって家族を支援

▶ICT活用の可能性

- ・サービス担当者会議や退院調整会議の日程調整など
日常の連絡手段として活用
- ・空知南部在宅ケア連絡会（けあれん）

R3.9月 コロナ禍での開始

「南空知・多職種・講師も自前」 ほかにはない、この地域ならではの勉強会を目指して
システムのZoom機能を活用した学習会

▶ICT活用の可能性

- ・診療所駆けつけサービス

緊急通報装置と連携した由仁町の独自事業

システムの位置情報登録機能を活用

訪問診療利用者や外来患者以外でも、24時間の訪問

対応が受けられる新たな医療サービス